

5—25

1 (表紙)

東都阿倍御一門御書写

2 (白紙)

3

尚々無事候哉承度候

各速参府可然存候間

如此候、以上

態一筆令申候、其筋別条

無之各御無事候哉、当

4

御地御静謐吾等も父子共^ニ

無恙有之候、然^者

御代替遠国之衆中^茂

御目見致参府候間

相模守殿御在江戸之事候間

5

能時分^{ニ而}候、早々被致参府

可然候、相模守殿御屋敷より

便可有^与存如此候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

政重(花押)

6

五月八日

村川市兵衛様

大屋九右衛門様

人々中

7 (白紙)

8

正月八日別紙之御状

令披見候、去冬

首尾能

公方様へ御目見江

9

難有被存候旨尤候

我等儀も弥無事

在之事候、来春

竹嶋へ舟被相渡候旨

10

無事着岸之左右

可承候、材木之儀

兩人へ之書状申達候

次重_{而者}子息

11

御目見_ニ可被指越之由

令承知候、一段可然候

無氣遣御越可有之候

猶期後音候、恐々

12

謹言

阿倍四郎五郎

正月晦日 政重(花押)

13

大屋九右衛門様

御返報

14

尚々道中無為

在所へ被相着候哉

無心元候、以上

去十一日大坂より之示預披見

如承意、去頃首尾能

15

御目見江相濟恐悦之旨

尤存候、大坂迄無異儀被

罷越之由目出珍重候

然_者竹嶋近辺松嶋_江

渡海之儀被申越令得

16

其意候、村川市兵衛方

相談被仕如類年渡海

可然_与存候、将又我等一紋

無恙在之事候、尚期

後音候、恐々謹言

17

阿倍四郎五郎

六月廿一日 政誠（花押）

大屋九右衛門様

御返事

18

追_而鯉節百贈給御志

過分之至候、寔去頃ハ

19

永々在江戸之處何之

馳走不申残念候、以上

阿倍四郎五郎

六月廿一日

大屋九右衛門様

20

猶以惣助爰許代々之名

九右衛門_与申上候間、其方名を

替緩々_与休息可然之委細_者

惣助_ニ申含候、以上

卯月三日之来札披見

今度惣助罷下遂

21

面談候處、其方達者

候得共眼病耽無之

重_而御当地_江参府

難成候由申付、此度元服

為致九右衛門_与名を改

22

御老中_{江茂}差越、過

廿八日_ニ首尾能致

御目見候間難有儀

大慶可在之候、委細_者

惣助可為演説候、且又

23

下緒一具饋給之

欣然之至候、我等儀^茂
一段父子共無事在候間
可御心安候、竹嶋^江之
用事惣助ニ書付申し

24

談候、猶期後音候

恐々謹言

阿倍四郎五郎

六月二日

政重（花押）

25

大屋九右衛門様

御返報

26

尚々其元無事之由

珍重存候、以上

過七日之御状披見、然^者

竹嶋^江渡候其方船朝鮮

27

国釜山海^江流され破損

荷物も悉減少之由、然とも

船頭水子無恙對馬に

在之由到来候へとも從

對馬殿江戸^江被致注進之

28

彼使者帰次第荷物も

水子共も帰シ可有之由

紙面令承知候、對州

より右之者共帰参次第

様子聞届江戸^江可被致

29

参府候旨一段尤候、殊

雲州とも嶋鱒二喉

饋給過分之至候、我等儀

無事御用仕廻、今日至

伏見一宿、明日令上京

30

直^ニ江戸^江可罷下候、来
春参府^者其節

可申承候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

十二月十三日 政重（花押）

31

大屋九右衛門様

御返報

32

酒井讃岐守

阿倍四郎五郎様 忠勝

人々中

33

昨日は伯耆国町人大屋九右衛門

私宅へ参候付、御使被指添候、右之

九右衛門儀竹嶋へ船渡候旨此頃

罷帰候例

公方様へ御目見仕候由

34

令得其意候、随^而貴殿

儀炎天之節毎日御普

請場へ御出候儀御太儀

存事候、何も期面上之

節候、恐惶謹言

35

八月十五日 忠勝（花押）

36

尚々惣助儀生付能

御手前仕合と我等兄弟共

寄合噂申事候、可有満足候、以上

四月二日之一翰令披見候

然^者貴殿儀眼病氣付^而

37

為名代同性惣助御下候

同名四郎五郎肝煎^{三而}

首尾能御目見

被仕候間可有恐悦候
随而下緒大小一具贈

38

給忝存候、将又我等
一類共堅固相勤候、猶
期後音之時候、恐々謹言
阿倍忠右衛門

39

五月晦日 正義(花押)
大屋九右衛門様
御返事

40 (白紙)

41 (白紙)

42 (白紙)

43 (白紙)

44 (白紙)

45 (白紙)

46

尚々為音問下緒大小忒包
贈給欣然之至候、以上

正月八日連判之飛札令

披見候、改年之吉慶雖事

旧候、珍重候、其表相替義

47

無之何茂無事越年之

旨令満足候、我等義無

恙罷在事候、然者去冬

大屋九右被申聞之趣

市兵も同前ニ候由令承

48

知候、兩人談合之上勝手
次第竹嶋より舟渡海材木
伐可被申候不及申候得共彼
嶋材木なと取候付他所之者
入込以来脇より訴詔人在之

49

六ヶ敷事出来不申思案
尤候、委細^者家来龜山
庄左衛門方より可申達候
恐々謹言

阿倍四郎五郎

50

正月晦日 政重(花押)

村川市兵衛様

大屋九右衛門様

51 (白紙)

52

尚々爰元之

為躰前代未聞

紙筆以難申 □^(謝力)候、以上

去六日之御飛札令披見候
如承意去月十八日十九日
御当地大火事出来

53

御本丸炎上侍屋敷町

屋等迄悉焼失絶言語候

我等并一類共も残類火逢

申事候、将又為御音問

轡助五懸贈給遠路

54

御志欣然之至候、我等義

無恙罷在候、猶期後

音候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

55

二月廿五日 政誠(花押)

大屋九右衛門殿

村川市兵衛殿

御返事

56

五月廿一日之来札披見

殊手□五掛被贈之

欣然之至候、其筋無

57

別条其方無事候由、珍重候

当春御手前船竹嶋^江

渡海被申付候由、得其意候

帰朝仕合能候哉、然^者

兼^而頼入候物も念被入

58

被申遣候由、是又過分之至候

我等儀も父子共無恙

在之候、村川市兵衛御当

地首尾能仕廻罷帰候間

可為演説候、猶期後音候

59

恐々謹言

阿倍四郎五郎

八月四日 政重（花押）

大屋九右衛門殿

御返事

60

村川市兵衛より書状越

被申返札遣候付幸便^与

一筆令申候、其筋相替儀

61

無之其方御無事^ニ候哉、去年^者

京都より御音札之趣令承知候

其元之様子御見合近年

之内御参府可然候

一 当春より其方村川市兵衛

62

被致打込^ニ竹嶋^江船渡海

之由一段之儀候、帰朝首尾

能候哉、吉左右承度候

不及申入候得共兩人わけまへ等之

儀少^茂六ヶ敷儀無之様^ニ相談

63

可然候、若滞儀候_者早速
島之儀_者可被

召上_与存候、此段市兵衛へも

申達候、当御地御静謐

我等儀_茂無恙罷有候

64

猶追_而可申述候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

五月十四日 政重(花押)

大屋九右衛門様

人々御中

65 (白紙)

66

村川市兵衛罷下り候付_而

三月廿八日之書状令

披見候、其表相替義無之

竹嶋松嶋之船無恙到来之由

67

一段之儀候、然_者扇子二本入

老箱贈給令満足候、将又

重_而ハ御手前為名代子息

可被差越由得其意候、随_而

我等一類共堅固罷在御事候

68

猶期後音之時候、恐々謹言

阿倍忠右衛門

五月廿一日

大屋九右衛門様

返報

69 (白紙)

70

尚々被入念示預過分之至候

旧冬之来札も相達令満足候

何ぞ申入可然事承候ハ、早々可被達候、以上

去月四日之御書札令十四日

到來令披見候、其許無
別条各弥無異之由珍重候

71

如承意旧臘^者当御地

每度夥敷火事出来

諸人難儀之事候、我等

近所迄度々焼迄遁此段

令満足候、被入御念示

72

預候段、過分之至候、且又去年

從京都給候御状之返札不

相届候由、無心許候、早速

返報調大坂迄差越申候

随^而手前家内無異儀

73

何^茂無事在之候、可被心易候

猶期後音之時候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

四月十四日 政重（花押）

村川市兵衛様

大屋九右衛門様

御返事

74

尚々父子共ニ無事候旨

珍重候、我等も子共無

異候、以上

五月廿一日之来札披見

其筋無相替儀御手前

無事之由珍重候、併老躰故

75

諸事被任心事間鋪と

令察候、我等儀堅固ニ在之候

村川市兵衛爰元首尾能

仕廻罷帰候間委細可為

演説候、恐々謹言

76

阿倍四郎五郎

八月四日 政重（花押）

大屋瀬兵衛殿

御返事

77 （白紙）

78

五月廿一日之芳札披見殊

扇子一箱被懸芳意過分

之至候、其筋無異儀御手前

御無事候由珍重候、御申越

79

之趣令承知候、我等儀^茂無恙

在候、猶期後喜之時候、恐々謹言

阿倍權八郎

八月四日 幼少故不能判形

大屋九右衛門様

御返報

80

一筆令啓達候、家来

龜山庄左衛門方迄被入

御念御状殊^ニ長崎

足袋廿足入沓箱贈給

81

欣然之至候、何も村川市兵衛

帰宅之刻可申宣候、恐々謹言

阿倍權八郎

十月十八日 政重（花押）

大屋九右衛門様

人々御中

82

尚々委細之書面

致承知候、以上

村川庄右衛門方罷越付被入念預

芳札披見殊扇子一箱贈給之

欣然之至候、其許弥無異儀

御無為之由珍重之事候

83

竹嶋渡海之船^茂当二月上旬
出舟之由一段之事候、然^者
庄右衛門方道中無恙上着
如例之方之相勤、去廿八日首尾能
御目見申上候、不相替代々

84

無滞被仰付我等^茂大慶
申事候、且亦爰許家来共^ニも
被入念被仰越之趣随分
不浅候、委曲庄右衛門方可被申
達候間不能詳候、恐々謹言

85

阿倍權八郎
七月二日 政信（花押）
大屋九右衛門様
御返事

86

尚々無事候旨珍重候、家来共へ
被入念示預殊^ニ竹嶋より給無恙
不浅庭前^ニ植申候、委細六太夫より
可申入候、以上

村川庄右衛門方罷越付^而
被入念預芳披見殊

下緒大小贈給欣然之至候

87

其許無別条愈御無事之由
珍重候、竹嶋渡海之船^茂
当二月上旬出船之由一段
之事候、然^者庄右衛門方
無異着如例方々相勤

88

過廿八日首尾能御目見
申上候、不相替代々無滞被
仰付我等^茂大慶申事候
且又家来共^江も被入念被

仰越之趣過分不淺委曲
可為演說候間不能詳候、恐々謹言

89

阿倍四郎五郎

七月二日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返事

90

尚々亡父四郎五郎我等へ

両通之紙面令披見得其意候

遠路御飛札過分之至候、近日

村川市兵衛可被致当着候間

其節可申述候、已上

過八日之御飛札到来

殊下緒耄具贈給

過分之至候、其元相替儀

91

無之無事之旨令祝着候

亡父四郎五郎方へ預御音札

令承知候、去三月相果

我等共々悲歎申事候

92

来年御手前舟竹嶋へ

渡海松嶋へも初_而舟

可被指越之旨村川市兵と

被致相談、尤_ニ候、委細_者

93

家来龜山庄左衛門方より

可申達候間不能詳候、恐々謹言

阿倍権八郎

九月四日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返事

94

尚々少遅参之儀_者爰元_{三而}寺社奉行

衆前_江之口上_者苦ケ間敷候、西_年_者

病氣御国廻衆様被相越候、舟渡海之年^者小身成もの故江戸参勤不罷成
当年罷越候と被申候ハ、苦ケ間敷候
相模守殿より寺社奉行衆へ御断遣候様^ニも存候、我等儀只今引籠気色
悪敷有之^ニ付諸事不任心中候、然共
各之儀御当地^ニ誰も引廻候者無之候間
寺社奉行衆へも可申上通候条、左様
御心得可有之候、以上
二月廿六日之飛札令披見候、其筋
別条無之無事^ニ越年由珍重^ニ候

95

村川市兵も無恙候由、是又毎歳竹嶋^江
船被相渡候間一段之儀^ニ候

一 其方御当地^江罷越

御目見願時分之儀如何^ニも此節能
可有之と存候、然共

96

御先代と違国主より寺社奉行衆^江
御付届ケ無之候へハ不罷成候間因幡
伯耆之役人衆へ能相談相模守殿
御当地^ニ御在留之時分被罷越
可然候、自然当年被致参府候^而も
相模殿御留主^{ニ而茂}御留主居

97

之衆寺社奉行衆^江断被申儀候ハ、
如何^ニも能可有之と存候様子^者
先年市兵衛罷越候時分^ニ御断
之使者被遣候間、其様子聞
可被申候書状^ニ被申越候通

市兵^ニ松平修^{山城殿事}理殿奉行之

98

時分内意之通早速其方被
罷越候ハ、不審立可申候間、少々
年を隔参府候様^ニと被仰

事_ニ候間、其方御当地へ罷越候_而ハ
御代替と申同役兩人連_{ニ而}
国元を罷出候得共大坂_{ニ而}散々

99

相煩、翌年漸致本腹候躰_ニ付
遅参、其上渡海之番之節_者
御目見へ_ニ参候儀遅成候由
申上候_而爰元_{ニ而}者
御目見江_者先例之通相違_者
有之間敷と存候間無氣遣被相越

100

尤_ニ候、当年_{ニ而}も来年_{ニ而}も
其元勝手次第可然候、来年も
可年_ニ成候間当年と被存候ハ、
其元首尾次第早々参府尤候
一 先年村川市兵参府之刻指上候
口上書之写、又_者別紙之切紙

101

令披見候、幸其節之寺社御奉行
水野右衛門太夫殿𪛗人御勤候間、此節
参府候ハ、定_而前々之通_{ニ而}可有之候間
可被心安候

一 今度諸国へ御触有之_ニ付_而
各竹嶋_江渡海之様子最初之

102

わけ被書上候由、左様之儀_者
公儀より御穿鑿有之躰_{ニ而}者無之候
是又相替儀有之間敷候間、左様
可被相心定候、此度之御詮儀_者
御書物出来候_ニ付御感状等之儀_{ニ而}候
惣_而脇より嶋へ渡海之望之者
無之様_ニと存事候、其段も其方_茂

103

市兵も油断有之間敷候、酉之年
市兵_ニもくれく其通申談候
一 最前も被申越被通市兵と

申合渡海之船相合ニ船被
差越候由成程尤之事候、不申
及候得共永ク其通能候ハ、末々

104

迄も荷物之儀茂買売物等
分合之違乱無之様ニ被定置
可然候

一
我等儀去年当年別而切々氣分
悪敷罷有候ニ付、此方よりハ以書状も
不付申通候、然とも寺社奉行衆へ

105

我等も可申入候条、内々左様
可被相心定候、自然此書状
越候期ニ替儀も候ハ、京都大
黒屋庄右衛門所迄早々書状
越可申候間可被心安候、猶期

106

後音之時候、恐々謹言
阿倍四郎五郎
三月十四日 政重（花押）
大屋九右衛門様
返報

107

追而御手前弥無事ニ家内替儀無之由
委細之三通数右衛門申聞せ令承知候
遠方ニ而嘸可為氣遣と令察候、無恙
令越歳候間可被心安候、殊更砂糖
漬之天門冬一折賜給之過分
至候、尚後音候、以上

阿倍四郎五郎

三月十四日

大屋九右衛門様

108

尚々其方氣分本復候哉
渡海之船之事市兵衛と御相談
一所ニ可然候、此方用事候ハ、可

申越候、庄左衛門も相果、我等も別_而
不便_ニ存候、以上

村川市兵衛参府付_而六月二日之
芳札過分之至候、其方気色

109

悪在候付、市兵同前_ニ参府
無之段今程御本復候哉、無
心元候、市兵衛儀去廿八日首尾能
御目見仕廻恐悦罷帰候間

110

様子可被申候
一 其方今度病氣付、参府
無之候_{而茂}不苦候、今少間を
置参府可然候、其趣
寺社奉行衆被申候趣、市兵衛

111

口上可被申候
一 同姓瀬兵儀去々年九月
三日_ニ死去之由、曾_而不存無音
心外之至候、嘸悲歎力落_{ニ而}
可有之_与存候、我等共_茂久々

112

之知人故残念候
一 近年竹嶋之様子不宜旨
市兵物語承之候、剩松嶋
渡海之船破損之儀笑止
千万候、市兵衛儀_茂近年

113

両島共_ニ所務無之難儀之由
申候、此上_者其方市兵衛
相談を以兩人一所_ニ船遣帰帆
損徳両方割付可然候、市兵衛
とも令直談候、弥其方_茂

114

其通被存候_者右之通可被遂
相談候、委細市兵衛申含候

且又我等儀^茂無恙在之候、猶
期後音之時候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

115

八月二日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返事

116

別紙之芳墨披見、竹嶋

渡海之事、去年被申越候通

市兵衛方^与相合^{ニ而}当二月

117

上旬^ニ被差越候由、一段之事候

然^者其方参府之儀

二三年之内^ニ ○^{可被相越之由尤候○}猶其内被致

参府可然事^者可申達

之旨相心得候、每度被入

118

御念示給欣然之至候、我等

儀^茂無恙在之事候

猶追^而可申述候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

119

四月十四日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返事

120

尚々被入念御飛札過分之至候

其方氣分弥本腹珍重候、島^江

舟被指越候義永々相続候様市兵衛と

被申合可然候、此節少^{ニ而}も両人之思案

別々^ニ罷成候ハ、早速余人^ニ被仰付候わん

ま、内證之談合能々いたされ候^而永々

渡海之船被指越候様^ニ尤候、以上

八月廿九日之芳札令披見候

御手前儀氣色快氣付_而

121

八月十三日伯州發足同

廿一日京着之處村川市兵衛義

御目見相勤、廿日_ニ大坂迄

罷下候付市兵衛方大坂より

御当地之様子委細之状

122

越候付、先此度_者在所_江

罷歸追_而如例

御目見_ニ可罷下_与被

存之旨一段尤候、其内自然

被罷越致

123

御目見可然儀_茂候へ、早々

書状遣可申候間可御心安候

一 先達_而市兵衛罷下候時分

申入候趣能々市兵衛_与合体_{ニ而}

已来迄渡海之首尾能様_ニ

124

相談可然候

一 被入御念飛札殊我等等_江立聞

二掛同姓権八郎方へ下緒饋

給之遠方御心入之段過分

之至候、我等儀_茂無事_ニ

125

権八郎_茂逐日氣色令快

氣候間御氣遣有之間敷候

一 紙面之通龜山庄左衛門

病死不便事を欠申事

126

推量可有之候、就夫彼者

世忤数右衛門方へ懇_ニ書状

被差越披見一々令承知候

猶又数右衛門方より申達候様_{ニ与}

申付候条、不能样候何そ

127

用事も候ハ、数右衛門方迄
御申越可有之候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

十月晦日 政重(花押)

大屋九右衛門様

御返事

128

去八日之一翰令披見候
先以新曆之御慶雖

129

事旧候、猶更不可有
際限候、然_者其表無
別条貴殿堅固之由
珍重候、如承意去冬_者
御下久々_{ニ而}遂向顔

130

満足仕候、存之外早速
帰国付_而暇乞_ニ以夫も
不申心外候、首尾能
被致

御目見_レ恐悦之由、尤存候

131

将又爰元一段御静謐
我等一類共堅固之事候
随_而竹嶋材木之儀
同名四郎五郎方_江

132

被申越由得其意候
猶期永日之時候
恐々謹言

阿倍忠右衛門

133

正月廿七日 正義(花押)
大屋九右衛門様
返事

134

尚々久々絶音問
御物遠罷有候、御無事
之由珍重候、我等一類
中堅固在之事候、以上
去五月廿一日之御状忝
令被見候、殊更見事成

135

扇子五本入一箱送給
忝存候、御手前御無事
之由一段之儀共^ニ候、当春
竹^江寫^渡海出舟之由定^而
御仕合能可有之と存事候

136

村河市兵参府久々^ニ而致
対面令満足候、其元之
様子委細承候、尚期後
音之時候条不能詳候
恐々謹言

137

大久保八郎左衛門
七月十二日 □□(花押)
大屋九右衛門様
御返事

138

尚々当年ハ御参府被成候哉
但御子息御下候哉承度候
六郎右衛門妻子之分ハ弥可為
御厄介と存候迎之儀候間御介抱
被成可被遣候、追付御吉事可申遣候、以上
幸便条一筆令啓上候
先以御家内御堅固被成

139

御座候哉承度存候、拙者
家内堅固罷在候之間
御心安可被思召候、其以後

以書狀も不得御意御物遠
御無音罷過候、去々年^者

140

両度迄預貴札殊更
結構成板竹など被掛
御意誠遠路御心入之段
別^而過分至極不淺候
秘藏仕致所持之處^ニ

141

去年二月朔日類火初手^ニ
逢申候故不殘焼失仕候
其後^者町屋久々罷在旁
手前取紛候間御無沙汰候
背本意候心底少も

142

疎意無之候、将又御同名

六郎右衛門事^{仁兵衛事}去年より伊丹

大隅守殿知行所甲州之内

銀山見立候^而被仰付罷在候

山随分能候由少宛銀出候へ共

143

未存様^ニ無之候、此山之儀^者
御老中様へも大隅守殿被
仰上候^而被仰付候御事候故此
上ハ六郎右衛門仕合次第^ニ候
六郎右一人山頂^ニ罷成候^而仕候

144

唯今迄大分金子も入候へ共
其段相調候間可御心安候
猶追^而御吉左右可申伸候
恐惶謹言

145

松田治左衛門

三月五日 □□(花押)

大屋九右衛門様

人々御中

146

一筆致啓上候、先以其御地
御別条無御座弥御堅固

147

御勤可被成候、珍重奉存候、然_者
伯耆国米子町人大谷九右衛門儀
江戸表_江願之儀有之罷出、此度
帰国仕候、此町人之儀私先祖代々
出入仕候者_ニ御座候、其御地_ニ御願

148

罷出候、尤願之筋不苦思召候ハ、
宜奉頼候、少_茂御障り御座候ハ、
御捨置可被下候、此段御頼可申上
如斯御座候、恐惶謹言

阿倍四郎五郎

149

四月七日 政以(花押)
松浦河内守様

参人々御中

150 (口紙)

151

是より奥ハ阿倍四郎五郎様
御家臣衆より要用之往覆
御書翰于今所持いたし
罷在候品々勝意写置也

152

尚々去年も御状今度市兵衛殿_ニも
御状被下忝奉存候、貴様弥御無為候由
目出度候、拙者も無為_ニ罷在候、重_而
御上り之時分不相替可得御意候
先年ハ初_而御越万首尾能
大慶仕候、此表御用候趣候ハ、可仰下候
御無沙汰仕間敷候、以上
去年八月廿六日之御状拝見

早々御報可申處何角^与取紛
及延引候、五月廿一日之御状
村川市兵衛殿持参拝見殊

153

扇子一箱三本入被懸御意
遠方御心入之段忝存候被仰下
御紙面委細得其意候、諸事被入
御念被仰遣候由、御紙面即
四郎五郎^ニ為申聞満足被申候
将又私儀も無事^ニ罷在候、猶々
期後音之時候、恐惶謹言

154

龜山庄左衛門
八月四日 花押
大屋九右衛門様
御報

155

大谷九右衛門様 勝野六太夫

と

四郎五郎被申候^者先日^者遠方
御成候処他出不能面談残念^ニ
存候、首尾能

156

御目見へ相濟候段承知目出度

御事^ニ候、然^者此方^ニ而態出来合^口之

料理進申度由候間、明^ニ日昼時分より
御出可被成、若明日御障入候へ、明後
四日之昼時分より御出待入候、右兩日
之内其元御勝手次第必都合

左候へ、御出可被成日可被仰聞候

157

此等趣拙者より申入候様^ニと被仰付
如此候、以上

四月十一日

158

猶以村川市兵衛殿近日御当地へ

御参府可被成由被仰越候、左候ハ、渡海

之儀様子直談ニ可承候、市兵被帰候

時分委細可申入候、先年相渡し候

證文ニ具可有御座候間今以其通ニ

舟御渡し可被成御仕合能可有之と存候

追_而御吉左右可承候、以上

八月八日之御飛札拝見、先以貴様

御無事候由目出珍重存候

然_者四郎五郎儀去二月上旬より

煩出し同月十六日ニ相果被申候

159

各様ニも久々之御知人ニ候間可為

御迷惑と察入候、跡職之儀_者

存生之内末之弟権八郎

致養子公儀相済候間可安

御心候、病中ニも御老中様

各御見廻被成色々御懇被遊

外実難有四郎五郎被存候

160

権八郎儀今以四郎五郎同前ニ

御老中様御懇御座候間可安御心候

御用之儀も御座候ハ、四郎五郎同前

可被仰越候、少も如在申間敷候

将又来年より竹嶋之内松嶋へ

貴様舟御渡し之筈ニ御座候旨

先年四郎五郎御老中様へ

161

得御内意迄渡海之番年

相定市兵衛殿貴様へ證文相

渡し置候間村川殿と御相談

候_而其證文次第可被成候、市兵衛殿も

貴様も其證文之通少も御違

背_者有之間敷儀と存候、猶期

後音之時候、恐惶謹言

162

龜山庄左衛門

九月五日 □□花押

大屋九右衛門様

御報

163

四月三日御息惣介殿ニ御越候御状
殊紫下緒一具被懸御意忝
存候、先以御子息様今度

164

初^{ニ而}御参勤此方^{ニ而}四郎五郎
差図^{ニ而}御元服、名も則
九右衛門殿ニ御替、首尾能
早速御目見御老中様へも
不残掛御目万事様子能
御仕廻御帰候間御恐悦候段

165

察入候、拙者も別^{ニ而}御代々
得御意候間大慶仕候

一 貴様御眼病氣^{ニ者}候得共

御息災之旨目出珍重候

久不能面上御遠々敷存候

166

遠国之儀候間最早懸御目

間敷^与存候、幾年も書状^{ニ而}

可得御意候、御息様御名代^ニ

御越候間御心易緩々^与

御休息何ヶ年も御無事

御入可被成候、能御子息様御持

167

御浦山敷儀と御噂申暮候

一 御息九右衛門殿委細御物語^{ニ而}

可有御座候、四郎五郎一家堅固

拙者も無恙罷在候間

可御心易候

168

一 竹嶋く用之儀別紙書付

御子息様相渡候、村川
市兵衛殿と御相談御調

大坂迄御越可被下候、右之旨
拙者方より申入候得と四郎五郎
被申候間如此候、爰許之

169

御様子^者九右衛門殿同手代

彦右衛門方具咄可被申候、随分
馳走申候、猶期後音之時候
恐惶謹言

龜山庄左衛門

六月朔日 □□(花押)

大屋九右衛門様

御報

170

村川市兵衛殿昨十五日首尾能

御目見相調被罷帰候ニ付一筆

令啓候、此春別条無之権八郎堅固
被罷在候、我等儀も無悉罷在候間
可安御心候、先以先日之御飛脚
海陸無事着申候哉、無心元

171

存候、然^者来丑ノ年竹嶋松嶋へ

弥貴様御舟御渡被成候筈市兵衛方^与

今度申談候、左様御心得年内より

御支度可被成候、御仕合能帰朝

之時分可預御左右候、猶々

竹嶋より桐之木御取寄大坂迄

172

御届可被下候、大坂ニて相良老岐守殿
蔵屋敷迄御届可被成候從御留

主居衆深水仁兵衛殿川原

又兵衛殿^与申仁兩人御座候、彼

御方へ内々申遣置候、御断候ハ、

無相違請取可被申と存候、権八郎方へ

173

二本程我等も一本可申受候、遠路
乍御六借資入候、此方^{ニ而}珍敷木^ニて
御座候間御無心申入候、老岐守殿
御屋鋪^者今度村川市兵衛御
存知^ニて御座候、尚御参府之時分

174

可得御意候、恐惶謹言

龜山庄左衛門

十一月十六日 花押

大屋九右衛門様

人々御中

175

尚々今度も村川と

弥其段被談候、明丑ノ年ハ

貴様両嶋へ舟御渡之筈

仕候兼^而より申渡候通少も

相違無之候間左様御心得

可被成候、以上

176

尚々市兵衛御相談類年

仕来候様^ニ被成、可然竹嶋之儀ハ

貴様と市兵衛殿と御兩人

御指引被成候間、能様^ニ御相談

可然候、以上

去十一日大坂より貴札拝見、殊更

扇子五本入老箱被懸御意

忝存候、貴様儀弥御無為

177

御越候由目出珍重候、四郎五郎

一門無事拙者式も無恙罷在候間

可安御心候、然^者竹嶋近所

松嶋渡舟之儀被仰越候

178

四郎五郎申聞候、村川

市兵衛方と相談類年

仕来候様被成可然旨候、猶

期面上之時候、恐惶謹言

龜山庄左衛門

179

花押

六月廿二日

大屋九右衛門様

180

尚々竹嶋より材木取候儀

委細ハ別紙申入候、以上

去八日之御飛札令拝見候、如仰

改年之御吉慶珍重候、弥

御無事ニ御越年目出度候

拙者も無異儀越年申候

181

去年ハ首尾能御目見へ

早々相調御帰府目出度候

重_而御子息御越し可被成候由

得貴意候、御馳走申候、御書面

四郎五郎初和泉守忠右衛門

八郎右衛門ニ具ニ可申聞候、内々

182

頼入候桐一本御取寄大坂迄

御届ケ可被下候、我等用と

御座候、猶期後音候、恐惶謹言

龜山庄左衛門

183

正月晦日

花押

大屋九右衛門様

御報

184

去八日之御飛札拝見、如承意改年之

御吉慶何方も珍重申納候、然_者竹嶋より

材木御取被成度之段、則

御老中様_江四郎五郎得御内意候處

両人之者勝手次第材木相取可

然之由御意之旨御座候、就夫上方筋

185

より剛者成もの老人彼島^江遣之
山々様子見立させ可被成哉之由
切米御出御やといにてハ不苦候、又ハ
同意^ニしないなど^ニ御相談^ニて材木
御取寄候ハ、以来竹嶋^江運上
指上ケ渡海仕度なと、

186

御公儀^江御訴詔申上義も可有之候
又^者材木取以後中ま出入扨出来
貴様方御兩人と公事之及沙汰
御公儀なとへ御出り之儀も可有之候
然上^者預ケ置御六ヶ敷と被思召
彼島被召上候義も可有御座候

187

不及申候得共以来出入無之様と
御兩人^ニて剛者成もの御やとい
切渡海可然存候不可過御了簡
右之段拙者より念頃^ニ申越候趣
四郎五郎被申付候

恐惶謹言

188

龜山庄左衛門
正月晦日
花押
村川市兵衛様
大屋九右衛門様
御報

189 (白紙)

190

尚々弥御堅固之旨目出珍重御事候
庄右殿と御噂申出候、爰元之義委細
庄右衛門殿可有物語候、猶期後音之時候
村川庄右衛門殿御下付^而被入御念
預貴札忝拝見如仰其後^者互以
書状も不得御意御物遠御座候、弥御無事之由
庄右殿物語も承知目出珍重之

御事候、今度庄右殿始^而

191

御越候處方々首尾能御勤

御目見も相済一段之御仕合候、此表

相替儀無御座四郎五郎父子堅固

被罷在候、被入御念私候共へも被仰下趣

申聞候、則御報被申入事候

随^而拙者儀も無恙罷在候、近年

内御下可被成由其節貴面可得

192

可得御意候、恐惶謹言

関川仙右衛門

七月二日 隆重(花押)

大屋九右衛門様

御報

193

尚々今度市兵衛殿御仕合能

早々御目見へ御帰^り候、貴様儀

御老仁此方一入御なつかしく候

よしいかにも／＼尤奉存候

拙者も年寄今一度懸御目度と

存事候、不相替貴様御同意候

九右衛門殿と可得御意候御上り

能時分九右衛門殿御越可被成候

互^ニ息災^ニて如此書状取替

目出度候、先以九右衛門殿近年

(後欠カ)

五月廿一日之御札村川市兵衛殿

持参致拝見候、先以其許

相替儀無之貴様被寄

194

御年候得とも弥御達者

目出珍重候、被仰越御紙面

致承知候、最早御当地^{江者}

御越有之間鋪旨於然^者

195

存命之内得御意間鋪^与
一入御床敷候、爰元別条
無之四郎五郎父子堅固^ニ
被相勤候間可御心易候

196

次我等儀^茂無恙罷在候

猶期後音時候、恐惶謹言

龜山勝左衛門

八月四日 □□(花押)

大屋瀬兵衛様 御報

197

尚々天祐掛物ハ随分出来物

之様^ニ存候、たてたはこ少分^ニ

候へとも正真^ニ候様被進申候、御帰国候ハ、

御左右奉頼候、当暮御飛脚御下候ハ、

其刻万々可申伸候、同名仁兵衛事ハ

御心易可被思召候、以上

昨日^者為御暇乞參候處^ニ緩々^与

得御意殊御馳走忝存候、弥

明日御発足被成候哉、久々

198

御在府候へとも手前取紛

御無沙汰背本意候、然^者

昨日申候上州寺尾たはこ

水戸赤土たはこ并八支

塩辛捲物為道中進上

199

申候、塩辛少分^ニ候へ共有

次第^{ニ而}候、随^而天祐和尚

墨跡一行物一幅進候

内々絵之懸物なと可

進なとへ存候へ共墨跡

200

御望之様^ニもと承候故幸

所持仕候間致進上候、御懸

御覽候ハ、可為本望候

恐惶謹言

201

十一月十日

□□（花押）

松田治左衛門

大谷九右衛門様

人々中

202

尚々御同姓瀬兵殿へ書状も不進候

御なつかしく候、互^ニ年之上候まゝ

御目^ニかゝり申ましきかと一入

御なつかしく候、以上

八月五日之貴札拝見、先以貴様

御父子弥御堅固御勤仕候旨珍重

存候、此表別条無御座、四郎五郎

一家無為被罷在候、次拙者式も

203

息災^ニ勤候間可御心易候、御紙面

則四郎五郎披見被申候

一 内々御無心申候物竹嶋^{ニ而}御調

被下大坂より橘屋清二郎相届

御注文之通無相違相達、則

204

別紙^ニ請取手形進申候

一 竹嶋松嶋両所^江御船被遣無事

帰朝目出珍重奉存候、此方^{ニ而}も悦被申候

一 此方より望之注文之内梅檀

板杓枚乗物之棒拙者詔之

205

桐木船中^{ニ而}捨り申候由残念之

御事候、然共御船無何事

目出度奉存候

一 大久保和泉守方^江御状相届申候

此便俄故御返事跡より可進候

206

一 村川市兵衛殿御下首尾能

被致御目見、早速御帰候

定^而様子御聞可被成と存候
其節^茂御報^ニ申入候相届
可申^与存候、猶期後音時候

207

恐惶謹言

龜山勝左衛門

十一月廿二日

花押

大屋九右衛門様

御報

208

猶々御気色無御油断御保養可被成候

此方御用等も御座候ハ、可被仰聞候、不相易

可得御意候、市兵衛殿^ニも今度初^而得御意候

此方之様子市兵衛殿御物語可被申候、以上

今度村川市兵衛殿御越付同性

庄左衛門方^江六月二日之御札拝見

209

御紙面之趣四郎五郎為申聞候

先以貴様御事去四月頭より

御氣分勝不申之由無御心許

奉存候、依之此度御出無之旨

御尤候、無御油断御保養可被成候

210

一 村川市兵衛首尾能

御目見相済諸事無残所

御仕舞御帰候、我等共迄大慶存事

一 御老父去々年九月三日御

死去被成候由被仰下候、兎角

211

可申述様無御座候、四郎五郎^茂

御残多候由吳々被申出候

一 同性庄左衛門儀去二月初頃より

相煩養生色々尽養保候

得共不相叶四月八日相果

212

申、無是非仕合御察可被下候

御亡父御事御懷敷杯と
常々被申出候得共貴様
御事御代々之御近付^{ニ而}
御残多可被思召候

213

一 松嶋渡海舟破損候様子別
紙^ニ御書付被下、則為見申候
打続ケ様^ニ御不仕合嘸々御難儀^ニ
可有之と市兵衛拙者共々
御噂耳被申出候

214

一 庄左衛門数年各様御慈志之
段兼存候、此上不相易御心易
可得御意此方相応之御用向
等も御座候ハ、可相弁候、四郎五郎
方より^茂委細以書状被申入候

215

猶以拙者よりも右之段可申遣候由
被申付候、猶期後音之時候
恐惶謹言

龜山数右衛門

八月三日

次親（花押）

大屋九右衛門様

御返事

216

尚々遠国両度御飛脚
被下別^而〱忝仕合両島之
御舟帰朝御仕合能候へかしと奉存候
来年御出御目見へ可被成候
事候ハ、其節可得御意候、以上
又候哉、此度も御飛脚被遣
殊更權八郎方へ長崎足袋
廿足拙者方へも同足袋拾足

217

被掛御意忝奉存候
一 来年^者貴様竹嶋之内

松嶋へ御舟御渡し被成付
当年より御支度之旨尤存候
今度村川市兵衛殿御当地へ

218

被参候間、則其段申談候
御仕合能御船帰朝之節
貴様御当地御越可被成
御目見へ候、来春杯御
出_者必御無用候

219

御不例付市兵衛
御目見へいまた相済
不申候、永々御逗留付彼仁
被致難儀候、権八郎随分
被入情是も

220

御不例付延引仕候
一 思召寄両度迄御飛脚被遣
別_而御心入と被存候、御参府之
節面談ニ御礼可被申候へとも
我等方より懇ニ御礼申入候様ニ

221

この事候、我等儀も弥
息災奉公仕候、可安御心候
事、面上ニて申残候
恐惶謹言

龜山庄左衛門

十月十八日 花押

大屋九右衛門様

御報

222

尚々貴様九右衛門殿
御油断之通九右衛門殿へ具
申達候、然共拙者随分
肝煎申候、左様ニ御心得可被成候
以来九右衛門殿御息御越し可被成候由

可得御意と存候事、以上
七月廿五日貴札忝拝見
殊下緒一具被遣御意過分
不淺候、先以貴老弥御無為

223

御座候旨目出珍重不過と存候
我等儀も無恙罷在候間可安
御心候、今度御同名九右衛門殿
御越小舟渡海之儀被仰聞候
右より之段々口上ニ具申達候

224

貴様御父子御油断と存事候
然共村川市兵衛方へ書状
越申候、能様ニ御相談可被成候
猶期後音候、恐惶謹言

龜山庄左衛門

225

九月八日 花押
大屋道喜様
御報

226

尚々去年市兵過分之
損仕由候、先村川舟渡海貴様
重^而之番より遣し可然候、其内
貴様御越候へ、御直委可承候、已上
七月十五日村川市兵方御越候
御状拝見殊更畦踏皮
三足贈給忝候、先以道喜老

227

初各御無事之由目出珍重
存候、此表無相替儀四郎五郎
無為拙者躰も無異儀罷在候
可御心安候、如承意春中へ
久々御在江戸候得共為差

228

御馳走も不仕今更御残多候

将又竹嶋渡海筋松嶋へ之
小舟之儀被仰越候、今度
市兵衛方ニ様子具承候
去年市兵衛舟出候着舟

229

不申大分之損仕由候、於然ハ
先市兵衛舟遣候、貴様ハ重_而
之番より渡海可然候、其節
御越候ハ、御直委可承候、当年
御当地永々御入候へ共何之沙汰も
不被仰聞候て筆談ニてハ委細

230

承知も不被成候、其上市兵
被申分とハ貴様書面少相違
成儀も御座候、市兵方口上ニて
有物語候、猶面談可得御意候
恐惶謹言

231

龜山庄左衛門
花押

九月七日

大屋九右衛門様

御報

232

村川市兵衛方へ遣ス書状之写
尚々去々年村川大分之損被仕之由候
間大屋渡海忝番用捨来ル丑ノ
春より大屋故御渡し可然候半哉、能様
御相談可被成候、以上
大屋九右方被罷越候間、一筆
令啓上候、夏中御越候へ共
何之御馳走も不申、今更御残多
存候、道中無異儀御越、弥

233

御在宅候哉無心元候、此表
別条無之旦那紋無事拙者

躰も無恙候間可安御心候、然_者
竹嶋近所之小嶋へ小船渡海
之儀去年貴様被仰候ハ大屋

234

九右衛門方ハ同心無之候間貴様
計にて可遣哉と被申候間
其節我等申候ハ当分同心
無之候ても重_而所務も有之候
大屋も渡度_与被申にて可
有之候、口上_ニハ無同心と

235

申分ハ実儀共不被存候
其内ハ貴様計御渡し可
被成哉と申置候、今度九右衛門殿
被參被申候ハ市兵衛同意_ニ
小船渡海仕度旨候、拙者挨
拶仕候ハ尤左様可有之と存候

236

去々年村川大分之損仕候由候
因茲先來年も村川船
遣し大屋渡番來ル丑寅
兩年より九右方渡し夫より如例
兩人_ニ順々_ニ御渡し可然候

237

彼島草木も無御座少之
所別之所務無之みち
油取申一種之由候、於然_者
互事六ヶ敷無之様御談
合可被成候、恐惶謹言

238

右之通村川市兵方へ申遣候
為念案書懸御目候、以上

龜山庄左衛門

九月八日 次□(花押)

239

大屋道喜様

240 (白紙)

241

竹嶋渡海之所務打込相談
相聞候節村川市兵衛より
手前差越候一札尔今所持
申候付為念此所ニ写し置也

242

取替シ申一札之事

- 一 当暮より竹嶋松嶋自今以後寄合之
所務ニ仕候、然上ハ此儀ニ付縦損亡在之候ても
利分在之候ても兩人割符仕、右之算用
少^茂無相違可致事
一 両島帰帆砌所務之品々少^ニ而も

243

無偽明白ニ可申相事

- 一 両島仕出之算用是又互^ニ少^ニ而も
隠偽申間敷事
右如一札之子共之代ニ至迄両島
寄合ニ仕候、然上ハ互無延慮

244

致相談島仕出シ入目互疑
無之様ニ可仕候、尤損亡又ハ
利分在之候節ハ猶以
兩人割符無相違様ニ
■算用可申事、仍テ

245

為後々年々一札如件

村川市兵衛判

天和元年

西ノ十二月廿三日

大屋九右衛門殿

246 (白紙)

247 (白紙)

248 (白紙)

249 (白紙)

250 (白紙)

- 251 (白紙)
252 (白紙)
253 (白紙)
254 (白紙)
255 (白紙)
256
 万治三庚子三月十六日
 誠諦院日善居士
 初 安部四良五郎公御法名
 慶安四年卯三月十二日
 正善院日住居士
 安部四良五郎公御法名
257 (白紙)
258 (白紙)
259 (白紙)
260
 大谷新九郎勝□
 文化十五寅春写之